

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)緊急事態宣言・ロックダウン終息ロードマップ

作成者： 日本マネジメント総合研究所合同会社 理事長 戸村 智憲 (とむら ともりの)

COVID-19の日本の現状は、地域限定的には既に医療崩壊が進行しているか、あるいは、医療崩壊の寸前のギリギリで踏みとどまっているところもあるように見受けられます。

少なからぬ国民の心の声は、だらだらと後手に回って生命も経済も致命的な惨状を招くより、早期の緊急事態宣言・ロックダウンでより先手を打ち少しでも救える命を守れるべき、といったものがあちこちで聞こえてきそうな状況です。

しかし、いざ、緊急事態宣言やロックダウンを決定した場合、問題はどうか終息へ向けていくか、緊急事態宣言やロックダウンを解除するか、という問題に今後直面し得るものであり、私見により試験的に”Beyond COVID-19”に向けた終息ロードマップを作成致しました。

見通しがつかず不明瞭な未来にパニックを起こされるよりも、明確な意志と意思を持ちある程度の見通しをつけるのが政治やリーダーシップかと思われませんが、本ロードマップが何か少しでも社会に役立てば幸いと思い公開致します。

【緊急事態宣言・ロックダウン(都市封鎖)における4つの整理事項】

① それらは万能薬や魔法の杖ではなく、あくまでも、医療崩壊・感染者を治療や隔離する病床やICU(集中治療室)や人工呼吸器等の医療リソースの枯渇や不足を、一時的に時間稼ぎをして、COVID-19での重症者を救えるようにするのが主な目的であること

② 緊急事態宣言・ロックダウンにより、プラスとマイナスの両面で効果を増大させること：

(+)増加させるのは、緊急時の収用等による病床数・医療部材や医療機器等・COVID-19に効果がありそうな医薬品を調査・検証・投入するまでの間に感染爆発させずに済ませるための時間・ウイルスに接し落としかねない命をウイルスに接さず救える命にしておける可能性・医療機関以外(例：個室や生存を凶れるホテル等の施設)で無症状者・軽症者を隔離していける施設数や可能性等といったこと等であること

(-)減少させるのは、医療崩壊で救える命が救えなくなってしまうほど新たに流入する医療機関への感染者数・ウイルスに接する可能性のある人数・だらだらと宣言しない場合に及ぼし得る景気回復等の経済面のダメージ(早期復旧を目指していく)・不明瞭な状況で却ってパニックになってしまいがちな心理的負荷(ロックダウンでの心理的な負荷よりも社会的混乱がより大きなダメージを生じ得るとも考えられる)といったこと等であること

③ 有事・緊急事態においては、リスクやダメージをゼロにすることはほぼ難しい状態であ

り、以下の3つのBCPや危機管理の観点から対応すべきこと：

- (1) どちらのリスクやダメージが大きいかを勘案してのダメージ最小化
- (2) なるべく早く復旧・元のレベルに戻す
- (3) COVID-19を契機に新たなリスクや惨状に対し備えを積み増し、危機に強く人にやさしい即応体制を先手・積極的にとれるようにする

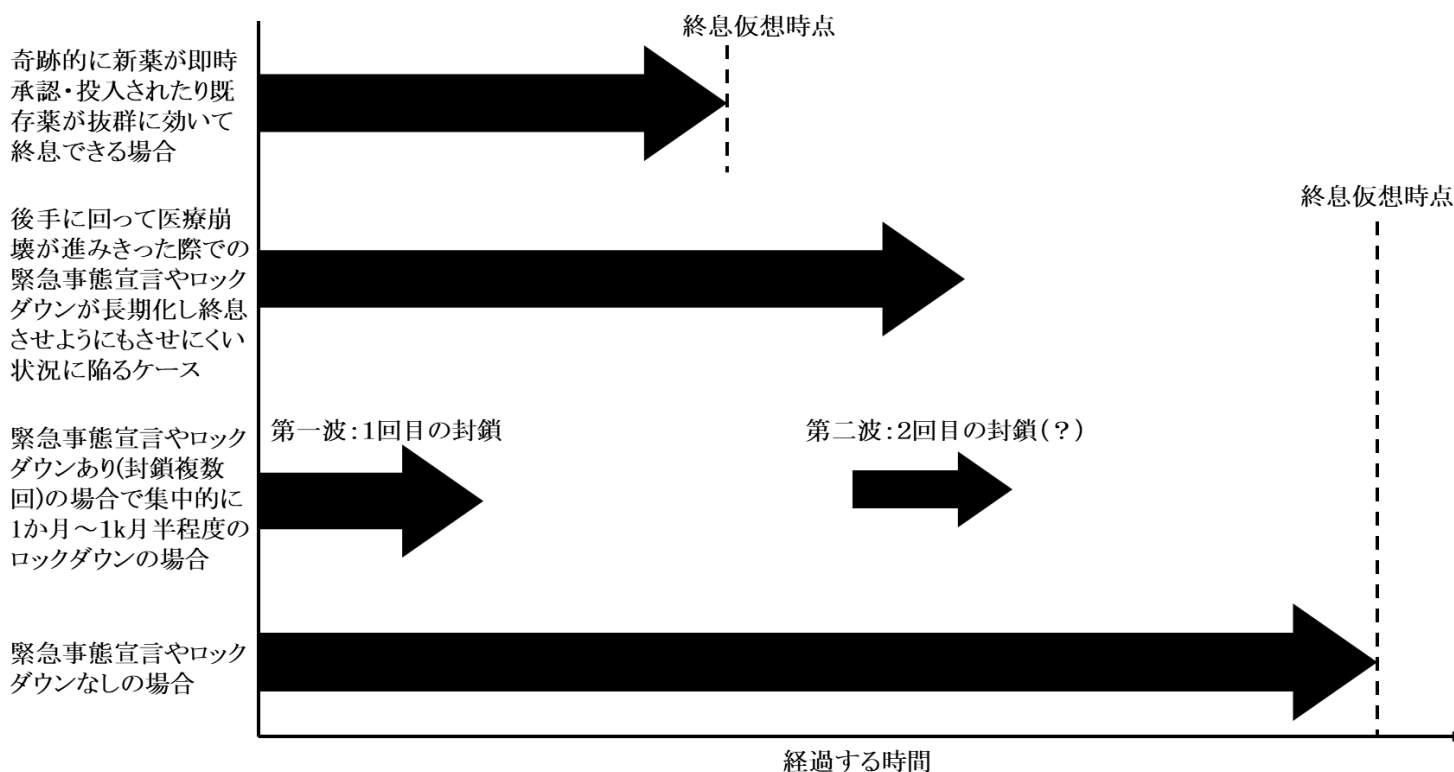
- ④ 緊急事態宣言やロックダウンの解消は、場合により、一時的なものとなり得るし長期戦で複数回のロックダウン等があり得るとも想定しておいた方が良くもしいかもしれないこと：

最終的なCOVID-19の終息への「3つの主な変動要素」は、(1)既存の薬品で重症者を治療・救命できる状態かそのメドがつく状態、(2)新薬で副作用等の問題もクリアしつつ治療薬・救命できる対策を十分な数量で投下できるようになるか否か、(3)無症状・軽症の感染者の隔離や治療と重症者のICU入院と人工呼吸器等の医療資源や医療関係者が確保できるかどうか、といったことなどを勘案し、医療崩壊を全国的に致命的にしないよう第一波を避けて(1)~(3)等の対応の時間をかせぎ、一度解除しても必要に応じて第二波・第三波を避ける追加のロックダウン等を講じて、終息に至れるよう1年程度の長期戦・総力戦で備えるべきと思われること

【緊急事態宣言・ロックダウンの”Beyond COVID-19”への終息ロードマップ(私案)】

COVID-19緊急事態宣言・ロックダウン終息ロードマップ (戸村私案:イメージ)

矢印図形の長さや面積を、生命・経済面でのダメージの深刻さと仮にとらえてみた場合のイメージ図



©2020.Tomonori Tomura. All Rights Reserved. (as of 5/April/2020)